



譜

急所方角集

坤



名所方角集 坤之卷 目錄

大和 初丁 河内 十五 攝津 十七

和泉 三十二 紀伊 三十三 淡路 三十九

阿波 四十 土佐 四十一 伊豫 四十二

讚岐 四十三 豊前 四十四 豊後 四十五

筑前 四十六 筑後 四十八 肥前 四十九

名所方角集下目錄

肥後 五十二
日向 五十三
大隅 五十五

薩摩 五十六
對馬 五十六
壹岐 五十七

長門 五十八
周防 五十九
安藝 六十

備後 六十一
備中 六十二
備前 六十二

播磨 六十三
美作 六十六
伯耆 六十七

因幡 六十七
石見 六十八
出雲 六十八

但馬 七十
丹後 七十一
丹波 七十二

隱岐 七十三
若狹 七十四
越前 七十五

加賀 七十七
能登 七十九
佐渡 八十

越後 八十
越中 八十三
飛彈 八十四

美濃 八十四
信濃 八十九
甲斐 九十七

上野 九十九
下野 百一
出羽 百六

陸奥 百十一
常陸 百九一
下総 百九三

上総 百九六
安房 百九七

○大和

素良 晒布 油煙子 堂扇 打物

をハ物素良此^京にて朝兼
是の徒ぬや甘^京心^京丹^京は^京素良
あ^京あ^京け^京く^京何^京玉^京を^京子^京切^京る^京素良
た^京あ^京良^京七^京重^京七^京半^京伽^京豆^京八^京半^京保^京
菊の垂^京く^京た^京ふ^京ら^京以^京ふ^京古^京子^京佛^京連^京

木の根をせせりや小麻乃角の除
眼小きゆめりきこしなまの麻
河あさよしなふらゐる家も流風家
葉めてお音くくくくくくくくく
仁為 仙里 素外

木辻 鳴河

つきの後くちを由れ男麻が
鹿のあまたるく鶴鶴心鳴河也
甘南 玉圃

光明寺后市湯登の物 河岡寺療ふ

陽あさや癒石と人ととる 佐保丸

。猿沢の池 宋世宮 衣々柳

名月や池のめぐりて終る
若葉や新れうけり春新
水着紫被着て来し人の影
猿沢の月ふと出す柳うね
新むしは柳の池乃如原か
若葉 宗風 園女 蒼狐 津家

十三之禮

菩提院 見取

リ 秋と中と之禮不情なり 岩翁

春日社。春日跡 山。里。系。森

春日跡や若紫の地麻の子 李吟

四所之まへおあふ小直常一竹小

今或日秋の折詰とまら山 甘角

貝山小松中乃打龍秋のこ 岩翁

ま松まるとハ細一麻乃声 希因

守りし麻も春日此神のまき 春郊

三心立山

若草山正

見さふしハ三心立山乃目 系 之家

谷月やソクアキキ三心立山 活例

降列きて月もる雲た三心立山 素外

羽羅山

何風や三心立山の輝乃ぬハ山 戈磨

大佛 東方寺

補陀樂々佛ふなりこれり涼き 昌意
大仏の市肌のおおや日の白り 乃州
月影も山より霞し東方寺 父翁
花の香や木くも仏の鼻此下 素友

南大門 二五 筑能あふ八山つあり
無福寺

なまの智やと申たつ此あの日 貞南
南大門之ふすれくか麻の声 正秀

警めれる色さあしや梅乃雪 泰和

○子向山 俗ハ情山庄

子向をや可禱るぬりく唐紫 政之

○子飛大跡 母さの鏡

山燒し流りお火のまふれは 左藤

え魚の寺

を結ぶ之因りて塔の怖が 牛吞

初瀬山 川

長谷寺

林を隔ての
廻廊あり

春のおやん	結人	赤し	半の隅	芭蕉
うかれ	る人	や	初瀬の山	松
ひま	おふ	卯の	ま	さ
松	忍る	心	ま	の
お	の	子	遠	を
初	瀬	山		
若	り	も	ら	画
鏡	の	鏡	よ	ら
お	と	と	と	と
希	因			

伸	上	る	松	を	ま	し	た	の	せ	山	茶
鶴	ハ	注	神	の	ま	を	う	初	瀬	お	ろ
ほ	る	お	ち	身	ふ	向	取	の	ほ	と	不
山	を	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	素
											外

夏之の梅

義五木のあま

梅の香やさきからしむ様を丸 園女

。休めし後。三悔り橋。三悔り川

うせむいお我ハ胆ぢくニ侍ノ侍 乙由
才乃乃能よるこらとまのニ痛ノ寄 蓮谷
弱とめよ雷る人なすくハ安ハ寐是 素外

。三輪の山 神岡山。市。里。田。きしの夜
索麩

村けむい痛のこる事より 尺南
索麩より帷子乃登家ノ邸 乙由
ニましの杉乃むいハ藤の裾、
山少佳の湧りぬげくこ痛乃山 素外

里の子ハいらこみ針とまい危 希因
輪の團の杉よ張名ニ痛此秋 不祥
むけら輪志杉ハ烟名ニ痛の心 亦丹
索麩れいもふ影ハ三輪の里 弟路

玄寶傍於菴地 かの山陰

ふろ新よたげ山位乃雨のつ 素外

。布留社 十握の飯と茶うまろし

いづの神ありくまをり市井作 季吹
弓の成鏡平ありぬく枝の垂 法徳

。左原寺 市五里こま

傍独の舞ふ向ふ藤の車 其南

絶有常宅地 別糸村畑中ニ井三

里れ子の舞の涼し 筒井筒 乙申
筒井筒巧ふくく なる昔の花 希固

飛をうと月井筒の松をち 換ル
昔御と我肩をこめぬかき とも

法隆寺 南無仏の太子日舍利

水袴のそひれなるし 紅の花 千那
夏夏河梅ふくく 耳の胡蝶ハ 涼佛

。辰乃市 辰の日の市へり西と

娘の音も日ハささるる 色衣の市 津波

立回山。立回川。わらわ川凡里。

新田河うくも浅き濃みち 秋田 赤みち

ぬきうちふ風もきく波立回川 貝系 政古

深川江紫ふいふ心ふり回河 凡 せて

立回川わらわ河朽さ赤桂 凡 赤誓

ちみ川里の縁わ立回山 凡 春郊

立回山。紫の神

立回山。紫の神 凡 九室

立回山。紫の神 凡 九室

更衣まじく織ぬ罪原 凡 園女

薄枯て申お非し申衣が 凡 梅川

着城山 金剛山一言主社ろくきの神 岩橋山伏 凡 仁口

葛城山法螺貝も接るるとしき 龜山

○二上山

大坂山凡とこき 越中二回名と云

二上りや樗かけし薦のきき 龜山

○畝火山

俗ニ指明と云

耕りゆふく〇火れちる紅葉 九室

○野梨山

他ニくらなりし 俗ニ天祐山と云

見様いそ様野なる山や秋のきき 潤和
鹿のききや耳は山乃推又た 存成

○海地

浮きもやみあれ地のあはき子 百葉

○天香具山

あゝあし卯の花の流しとて人 園女

新編 雑記 三

倉持山

丹波二回名

千代ら月くしはし山れ雪の事 云笑

多武の峠

カマフヒヤニ
後平 紅葉洞 大藏官社
十三重の塔

板宿ふしこころし多武の峠 貞佐

塔のまよふ人墓

日本書紀蓋寺

此塚ハ掃り苔のつれもなし 希因

細津

朕詠

もく者らとふ休し小津外 芭蕉

龍の窟

仙室のたほ龍とて世とま

龍乃らとや上戸のちき屋よせし 芭蕉
酒のふゆ〜んうた龍の花、

十津川

岩波と十津川きり小館ふ 閑菴

古今和歌集

〇十

各所拾遺

○吉野山 金峯山 吉野山 里

是ハくく申の素のりゆ山 貞室

深あしとほろこい海たるの山 立圃

花のりゆゆ実より世の能中 赤子吟

こよゆゆ花とこくもるまほ 風虎

みゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 友聲

とハ中吉野よおるし山嶺 言水

只のみにゆゆゆゆゆゆ 西雀

定ぬまきもゆゆゆゆゆ 鬼費

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 高風

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 未山

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 清徳

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 煥外

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 一鏡

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 貞角

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 山

歌喜ゆゆゆゆゆゆゆゆ 文考

吉野山

上

雪ももつみさなる吉野山 葉人
 斧の柄も折むよりゆきもさる月 夏葉
 若人と春人もあはれけしき 吐風
 さる鏡もさるのよりゆきもさる月 不祥
 みゆきも身人もはるき花は若 津家
 こよりのこもくよさる乃世界が 笠衣
 白雲もさるゆきもさるのよりゆき 夢老
 空は又もさる乃鏡もさるのよりゆき 春嵐
 花の眼もさるのきさるゆき吉野山 把景

抱いててゆきもさる乃ゆきの山 露水
 鏡もさるゆきの葉もさるゆきの山 玉圍
 春も凡もさるゆきもさるゆきの山 素外

吉野川 流

吉野川よきやもさる乃ゆきの山 宗經
 よきや川もさるゆきの鏡の天下 別常
 空もさる乃川もさるゆきの山 春郊
 花もさる乃花もさるゆきの山 順翁

徳川家集
名所拾遺

二七

眼のおとよ云ハ申くこまは珍川 乙維

吉水院 形まかありしや行とこしの一実

あよりしあし結文首白ころろ 超波
若り釘たつやと付の花乃奥 甲長

花五半 回糸

初をあるじや花五半花の下 存我
あつたつやとらとて

破打てとふよゆせよ坊の妻 花意

遊ぬけの塔 回糸

こよしゆ戸遊ぬけて二木初儀 乙外

西行菴 回糸 かしりの清水

ちりちりしく公及よ海世まのりや 道直
喜きゆれ木下ふ修ふしり外

ちりちりしくし屋の清水 吉 盤谷

名所向集下

二七

名所詞集

きふりてあるめし父水をたり
後小龍女ハ濁りなる夏ころ也
平妙 遠佈

○神振山

晴野やまより神ふ山ひ川
柳居

ニシカウノ
西河龍 うき川とて大龍と云

ほろくく山吹ちる龍のき
碓よとの龍とありや友衣
芭蕉 平妙

○甘茶橋川

昔の首や同くとの甘茶橋川
まのくやと流る甘茶橋の川板
也磨 園女

○大澤 役行者事

大いづのふまきの先達や別處京
大の澤やのゆき葉は花の果
可全 芳良

名所詞集

〇七五

新編 雑集

園上詩

日暮入一山くくく詩が糖正堂

○河内

金剛山

金剛砂 大和河内もまのまのこ

千軍吹送めて

文り乃る金剛山も秋の風 舎羅

親公寺

空西粉 楠石塔

楠乃禮ぬくれー牡丹哉 甘南

道明寺

比丘尼寺 楠 木摠樹

糲あも鶴や悟す心冬日教 系芳

姪子寺塔

志紀郡の塔こ俗よかくる

あひをれの塔傳り神も未済元 尺軒

依田天満宮

昔葉の四よやをめくはと向軒 季あ吟

牧方

考案ありて草々たる人の平房吟を今

ひよゝハ著のたゞおれ堂が 依徳

○撰津

大坂橋

涼さるや涼くおて橋より 来山

涼心ももてて涼く橋原し 貞佐

牛頭心車ハ使へず橋原と

夕すくみ月も浪をハ橋乃殺 希因

世ハ花よきくきわく橋の殺 涼袋

常のつるも保めと雞皮のま橋 冬雪

川筋や影も行橋の所涼し 春雪

遠行くわが橋もサアもまら電 如雷

新所集

信光傳より信光の弟やめし電 津家
八子や四子試まき道の信商人 素外

阿波陀池 信光ちち事の上りさまあこと又
大和国信の池あり

歌傳のや佛の傳とよむ堂 有依

四ッ橋

四ッ橋の角三々をきみの月 乙列
橋さふ四ッ橋は四ッさるる龜 未山

新所 よの橋 砂場 芝草

ほのくと身とる炭火やむの歌 地回
川うぬ赤の花や梅う雷男伝道 ト人
松儿しく通道揚至の能給巻 素外

本教寺 小津村浄坊 西
南新成浄坊あり

海崇戸おハッおまき世のあ 史那

新所集

新編

新編

。たぐ川の宮 今言律と云 湯豆齋

言を堂おのりて受けハ踊か 貞佐

娘をよや先る名師のまをきと 雲子

眺を

朝照る生弱武彦山ニけり 法々

玉造福寿社

ま〜まを合々福壽乃造了場 素外

北濱 枝葉ま一の茶市

水濱より川や朔風秋あ場 素外

天満天神社

神木おはるるまおや今も梅のゆ 大坂 重寛

誰人乃公侍〜と画るを 花笠

娘は律お神のまふ〜梅瓜 素外

梅井此宿

楠父子別れの傍に梅山子の碑と
さう〜舟の里山城名あり

新編

〇七

新編 所名集

十一

持子りかゝる河や梅の香 芭蕉

能因坊

古より村

公川の舟はたぐさきとあ 君青

芥川

月今宵 籠かき入川芥川 三好

玉江

裁前小田名

世々よりよ玉江のまはれは 惟然
為の定宿とき玉江の那 清

玉川

里 卯の花

卯のまや雪ふかくれぬ川も 孝克
玉川も玉 鼓まらぬよ花卯木 仙風

江口

江口の石は像とあり

やれは 法身いも一付か 梅翁

名所同集

十一

新編 戸部集

白き舟にたりもわは口の舟乃空 丹波 宗貞
川亦紙とめては口を舟 丹波 宗貞
情心や川國まゝのやうそ 丹波 宗貞

○長柄の櫓 かゝる櫓ハ折てなまのりき

かゝる櫓も傳道也 櫓の舟の水 保友
涼さ紙乃うよく毛柄は 糸 紙貞

○那波 部 海ふらる津合多し

浦あみしより や那波の部公 貞室
河もくたまも ち那波村浦の月 紹性
枯草や 那波入江のさくら波 鬼貫
苔や 今紙まき道し巨魁より 信成
拾や みる浪の花の足月傍 雀舟

○那波の梅 那波の里にそ

那波津ふ 此水の雨や梅のお 梅翁
雪と 見く又世を身を村の梅 龜文

新編 戸部集

三

新編 菅原集

左

○伊津溪 松系

月ハ年ハ川ハ冬ハ自也ニウハ川の溪 貞固

上巳

月也日もし川の溪也の以平 康吉

初日也松系輯てまの溪 市仙

○因の表の詩

芦田存也や因の表のかし編あま 五種

○塙の 塙の 塙の 塙の 塙の 塙の 塙の 塙の 塙の 塙の

うらとと塙のの鶴は海世ハ 山夕

四天五寺。 那波寺・森井の水 石の家

樂のを歌ふ和め花さうり 助音

そら鐘のともちや鐘も月の秋 好道

糸田逆のほめや花のめきたる地 園女

鐘のこゝろもさる鐘や秋の鐘 文朝

白鳥毛乃まろハ知しとせぬ 平砂

古今和歌集

十一

曙や仏法宮を御遊のつね 菟梁
未未記のあふいけの遊名が 素外

。位吉 漢。里。清吉の浦。岸の姫松。忘州

位より此きしませしてゆきし子祝 紙舟
唯松のかさむし雪や行幸為云 すと
かき就うりては終ふ葉は人ひまか 系 ぬ白
位吉のまきふ少竹やす 蛤 ち舞
のりら帆乃は終るるは海手か 玄来

位の内やあかき結して浦は月 其角
狗邊てゆきを春の汐干ふ 史邦
子祝ニあめふハ清なる言 尺州
唯松を鏡ちの終りゆきか 希周
位吉のなや百もとも忘道州 春郊
位吉のまき繩涼し 清涼清 平砂
杉涼し岸の向ひとせしの岸 中外
涼しや杉をよなせて彼の言 把業
清平ある風位吉のまき回成 乙雅

扱ひ廻り行わひの方とを親 素外

。高水 後戻小跡 大和 田名者

。高水 一足三つりりまねあり 素道

。長井北浦 池

。長井北浦 池 中村 一安

。遠里小跡 池 後戻小跡の池は志とを

。柳小川 小川を里小跡の舟が 露沾

。弁共 文信 彦崎山にをる

。弁共 文信 彦崎山にをる 果伴

。兵庫 和田の御旗 松

。よ川 志のくまをふやほのき 未後

。鳴呼 志居 楠子之墓 浅川

新編 諸藩 系圖

卷之三

禮女も位社あり百合のま 支考
半しほりもさき水存小候 涼備
吟吟原し名半蔵の石も 意外

甲山

はらきも具足たのら甲山 重寛
甲山立らるるきはとこの月 雨節
上代のまも心され甲山 史邦

音間山

溫泉 大湯女 小湯女 湯 人形奉

湯長女たは使は葉の枝たが 三子風
後とんあくれ有るたささ 枝あり 志綱

湯湯野

也
あささひう啼こもやう子規 丹波 正貞

西宮惠比須社

神作の朝も夕園の傳替 祇叶

新編 諸藩 系圖

卷之三

各所句集下

花

○武庫山。川。崎。後。浦

月の影如入まらぬをむくの山 明石 如貞
むくの山をいふ一し申すかす 明石 明海
むくの山をいふ一し申すかす 明石 明海

○柳影山

石出のこ 山影の同名を

山白し流る月をいふ影石 枝影

○布の影

深合ぬ布一糸や影の秋一色

○縄の浦

縄乃浦登堂丁の畑や干燈籠 言水

○藤乃梅

生田社のあかき

二交のかけや藤乃梅乃藤 同梅乃 正武
ちりりかき梅や柳の天より 涼袋
吸る月一枝をいふ梅の影 龜文

各所句集下

花

名所全集

卷一

。次麻石。夏。浦。里。上邸

寂もあふ今もあふりには有 貞室
 宮への浦や師きの果ふゆめり 一換
 又ふあまき人うもやはらの家 言水
 月代や昔のときいほくの浦 鬼費
 かゝあは道ちりもくさう 芭蕉
 月とるそめあそくははあま 素巻
 葉のよひやほくのよせり松斗 素巻
 はく人のよくいほくと秋の言 調和

寂もあふ今もあふりには有 貞室
 宮への浦や師きの果ふゆめり 一換
 又ふあまき人うもやはらの家 言水
 月代や昔のときいほくの浦 鬼費
 かゝあは道ちりもくさう 芭蕉
 月とるそめあそくははあま 素巻
 葉のよひやほくのよせり松斗 素巻
 はく人のよくいほくと秋の言 調和

名所全集

卷一

名所集

おぼふ河も一にせらるは海土 浅也
松風と石されぬおの千も外 葉也
僧よをも今らる松はなりき 涼袋
杉一本ありし秋ははるの月 秋色
こつとふ豆腐あつとばはれ 素外

吉就坊

千急ふ鳥のあふけらりて遊ぶとて
頂上の雲下はあきたる常也 芭蕉

此方の山乃目しなるともあはれし 春律

一乃谷 二の谷 三の谷

一の谷小低く月や海おとし 正後
帆のぬら風も海たさうな 涼袋
そとさか合ふ谷も一ニ乃谷あは 佐佐木

敷盛の墓 海老い

新雪りに石は積りし浦の音 貞佐

名所集

〇七

膝のしふあそい 懐心 苦ぢぢり 凍袋

志度の墓

約林村に在り

志度此右の脇也 山 梅 牛寂

須麻乎明石

明石ハ接列カレト海ツキオテ
まのあたりちんちんけけけけ

月やほつ明石の系以とつく 風虎

蛇牛角より己けよほつ明石 芭蕉

山うけく卯のこころはつ明石 ちんちん

形代也とてり府向ハ海取石 石築

○和泉

塙

後焼物 漆代 鉄炮 出苗屋下

とくもや塙の所乃十口白象 小糸

海塘より海乃塙才 小糸 雀子

高須

地こくともろお女あつらふ

ゆのしとんとんをき地獄が 一休

ふふふふ人にもあさふふハ 地獄

ふふふ名はふふふふり

足代家の妻は宿名のはげな結女 素外

大之嶽

妙玉寺

大之嶽と名つれ一嶽の嶽嶽山 素外

水間寺 観音

水の間と名つれ嶽の嶽嶽山 素外

磯通社

帆あつらふ松を松けりて松と名つれ

松の松と名つれ松の松と名つれ

松の松と名つれ松の松と名つれ

松の松と名つれ松の松と名つれ

松の松と名つれ松の松と名つれ

松の松と名つれ松の松と名つれ

○信太此林。里。ふ枝の痛。首

く枯の首や信田の物と塚 於廣

首の葉や梅ふからよの床より 高尾

首の葉の匂ふわけて産葉が 蓮谷

とくくふ信田の首は若葉が 不遂

葉の菊ふきぬ女や夏の秋 未云

○紀伊

○紀乃川 下中川の集こ

きいりうろく矢紙はくふや言れ目 文用

○妹脊山 別妹の山と云あり一説妹脊山矢和とわれと方南抄に倣いて定お出に

別わくて川の筋涼し妹脊山 柳き

妹山の脚しあうやふれ月 乙娘

くおわぬく妹脊の山鳥 素月

四寸岩 子孫名に 不動坂

鶴鶴の小鳥 告めや 四寸岩 貞徳
めまいたるらん 庭の涼し 不動坂 巻土

女人堂

けふより 女人堂 剱

百合の女 唯と 子名 小玉 厚く 乙由
坂を 大や 一敷 乃 各 強 如 人 巻 貞徳
を ぞ ね 樂 事 之 厚 乃 女 又 巻 巻土

高野山金剛峰寺

佛法傳 古砂 同 茶 院
水 候 万 年 草 珠 粒

形 梅 丸 傳 法 の 師 也 三 枝 の 松 三 糸 風
老 木 亦 丸 之 跡 平 一 兎 橋 夕 翁
父 母 の 志 き 乃 一 也 云 一 誰 の 声 芭 蕉
卵 塔 乃 も ぞ 母 也 安 丸 神 在 月 冥 南
高 人 の 心 一 一 味 一 一 跡 山 尺 軒
小 六 月 之 妙 妙 の 地 乃 一 一 水 岩 翁
幡 鉤 一 一 一 一 字 世 の 道 北 一 一 燈 吹
蝶 一 一 一 一 命 一 一 一 一 也 舞 衣 涼 巾

谷所集

五

○五川 毒ありし 回宗

珊瑚珠も破れて流せしは清水 乙磨
遠くへよ地元の五川水とも 乙瓶
あはれ月も春もも欲乃五川也 素外

市廟橋 俗にせう君の橋 蛇御

赤眼めも柳とくえて清きよ 乙由

奥院。岩の家。岩の洞 大師入定のふし

奥乃院何や〜栲のよふこぢ 糸凡
ちる那ふ此若知〜 奥の院 杜由
花も咲身も啼とも松乃葉 素外

○若浦。岩。石木

あゝの浦や汐満て面穿る御足 与武
月もたきさゝの思ひや和音の浦 正全
ゆきふ初方の浦めく道行なり 芭蕉
あまな鳥城のあふ深とる 沾徳

名所

五

浦の波絶え井とておのり
 枯草の存性よりしおのり浦
 舟をりし空より足の死
 漁乃白飛も負し新交はま
 若の浦小人居るもゆき
 乃名はけりてとせまら
 和めさし行男波といひか
 ういはりて遊こまけりし
 重なりぬきしくかき男波

八軒
 貞山
 貞堂
 松水
 宿部
 素外
 龜龜
 残雪

玉津の神社 伽羅山一山二石こ鏡山

伽羅山不遠るは鏡山我々の
 夕景やまありて面を玉津橋 素外

絶三井寺

浦のまきじより一室不絶三井る 花並

吹版の浦 和泉丹波は同名の名不あり

若ハ三河吹瓶の月紙扱をが 可南
片多しきりー吹瓶は落の声 岩箱
網形ふ吹瓶のうも後くれ 摺儿

粟津社 加田

津及のふ雅と遊まふ浮らとり 壺瓶
一對の配を考て其の末の浦乃波 摺儿
何なりと雅ハ持し加田の海士 素外

○由良比御津。漢。河 丹後。同名を

仲津風甚るるや由良の海邊 一正

○筆拾松。高白山

筆拾松の心も松乃さるは 高白

雲取山

やまのふかき水はくちを流す 高白

○那智の滝 山。信後

流津もや才根ふ有て流る 高風

ふまのちとちひて

天喜すこのの滝乃かまひか、

○観世もろ 日新宮

流ハ汗補陀尾くこは藤か 平砂

○北巻河助

平家の末葉とて居地あり

川昔のた一時もさうなげに 嵐雪

○熊野浦 山 藤 野

もあつたなまの川流も高を録 在精

茶臼深福の墓

ちのるしちあめまは坂へん心 蝶友

○まきの川 山。流。里雄の山と

月あめく柳映りてまゆめ 三島

道成寺

世に名ありあはれあり

まことの花を飾るにふりて

芝栢

まてあ一坂

はくちもも果なり一坂ありて

素木

○沿路

沿路の記

どのとある

沿路の通りもはくちの側へ

徳元

まてあ一坂ありて

三平風

降中も沿路の側なり

赤尾

六月も甲子の申の沿路

仙化

船物も沿路の側なり

曾小

燕や沿路の側なり

貞佐

沿路の側なり

海如

沿路の側なり

乃翁

○ 徳久馬 徳

あつし草子の女を徳久馬浦郷 柳亭

○ 阿波

○ 鳴門 大鳴戸 小鳴戸 浦

鳴戸の舟もくは舞のねはは 三島
徳信師阿波の舟と小鳴戸 其角

鳴のちる湯ふはれし浦郷 氷花
波をちる鳴戸乃入日死る舟 山夕
秋風の舟日死る鳴門が 百和
船小舟もくは舞のねはは 葵足

○ 土佐

○ 土佐山 檜 檜皮 帆柱 四玉柱

あのかのさのさぬ漏てよいとる處 小知

矢野の神山

葛葉のさぬ神山神宮ぬ 其葉

伊予の湯

伊予 天子浴する所なり湯の板とよみ

湯の羽平の湯の例も原しといふ處 太布

湯の湯 伊予の湯のハツリ 千外

○ 横波

宗の湯

形原と湯と石 同行石 佐原の湯

五百とせれ名は湯の原 宗風

今つりあふめり拾をん羽の湯 原袋

志津の寺

志津の寺

玉津の湯の原の湯 宗風

屏風浦 西の菴の松

浦は屏風を打たせぬす^{言妙}か 元賢
世にぬれぬ木坊とこを西の松 三平凡

清塚

松尾のつゝおはは幼女のま^{言妙}しの松と

秋と鳴りやけは女の魂よこし 新風

多分山金田の松大松現

花雪し律の感徳も多分山 号夕

あふあふを幣と合のゆきり月 千外

提帳涼し浪波の鼻乃多分山 津家

○豊前

○鏡秋。浪。多分。菴の池

又哉んよ東乃多分秋と 女考

○彦山

靈仙寺 暮木 山麓あり

彦山の嶽やまなびの峰のそと 彦山

豊前町の山

神通坊阿彌子入道や御石記、

御石山

今風法公乃はよき御石記 彦山

○宇佐八幡宮

程の女身も多し 程のこゝろ 彦山

羅漢寺

半ら也 石佛の外も石仏ありし 本堂室及び山麓の内

彦山乃五石枝の一本や石佛あり 彦山
首のよふに秋の影や石佛あり 彦山
川入と石佛ありて石の秋 彦山

彦宮

細安天神 彦宮ありて彦山

彦宮よと彦山彦宮彦山彦山

終形集下

門司守 此古赤間といひ外明の今ハニツニ
別家てふふまハ其守の地ニミ
父之の通了判あり門司守 宗風
昇乃飲の所もこたふ城守
神守や一考又由くふ守守 乙由

○豊後

玖珠

昔司水不玖珠守の守名の面白し 支考

不知火 甲の浦ま大ニツめくお執かしくお月
八九月の以あらし

ましぬちや波の跡に雲いさか 意え

○筑前

水巻の国

その後ニ回るま

名所初集下

四六

あつきの名や一対筆津虫 一六

。箱崎 松 八幡宮

あつきの名や松のぬきあむふ徳 涼袋
あつきの海とく州乃花のな 涼袋
幡乃流あつきの名は松の枝 校録

。生の松原

雪の徳てなぬせらりせの松 涼袋

秋風の松よりそく生の松 涼袋
ふの秋は徳何松の心生れ松 涼袋
畑よりふすあなまはらとせの松 涼袋
夏まゝぬき名やのきは月乃松 松架

。袖乃俣 松

唐船を袖の俣ふら月 朱秀
海川のあつきの名やまゝ星の帯 祇宮

大宰府天満宮 安樂寺 飛梅梅のち

今も知れし神祇橋本の間東風 二京風

秋来ぬと雲も花梅月細し 祇宮

清も流へ来と御中やこころも 涼御

梅安不神とまらよと代このま 扇良

身も梅のちりや匂ふ翠草葉の風 松加

。竈山。火梅。御山

雨客雪し花系ふかきの山梅 堂山元主 弘有

火梅やと梅このちを竈山 二京風

のちありて雲も糊もや竈山 花葉

翁岩 金ヶ崎

海中長ふ菜かこち急や翁岩 二京風

。高根宮 神宮皇后安産の地

鳥のちをと根や花と神の庭 涼御

朝倉の宮。山。木を及岩のうはし海。古伝に云
別名や名もの。誰子郭公 独徳

○飛後

速見の浦 里。
帆ヶ糸今細也ささの浦の秋 師念

千歳川。一叔川 俗名飛後川に山

花のよめささの浦の秋 雲鳳

○肥前

松浦山 領中振山 佐叔作石海川

ひまわりし雪らん事さよ姫也松 雲吟
領巾さ北山乃さすさの海也あ指 元隣

流俗社

昔とて流俗をて修るも流俗有 去来
一八等二月流俗の名を流俗 考

松本林天神社

神輿細袋の像

神の流俗や流俗の流俗あり絶 宗風
連流乃今言ふ
幣流神や流俗の流俗あり

雲仙山嶽

温泉

比嶽と考ふも流俗あり
山麓に流俗と考ふも流俗あり

流俗や流俗女流の流俗あり 宗風

鳴原

流俗や流俗の流俗あり 宗風

五嶋之部

流俗や流俗の流俗あり

福江流 流俗の流俗あり 宗風
流俗や流俗の流俗あり 宗風

大宝寺 日下 中宮唐仏に古本を傳とらしり
所しきせり

寺のまじりの花かんをまきぬ 花菱

久かき

語りくのもまはしきけりかたき

奈るまき 中神の穴とまきおみぬのまき書
あり

いりしきやうと仲と遠眼鏡

中瀬の魚の目浦 香川浦 くら卯

日しやゆり大魚のちい

布川の淵 日下 岩殿にまき人かた山の淵
各けり

唐語の竹をいりぬの淵涼し

宇久崎 松の嶽

志のせまや魚乃初々嶽の嶽

○肥後

兼池川 苔

山と河の社とのとくも西國池河 子風

阿蘇山 社也 伊岳温泉ニ烟穴を

阿蘇よりある月の依助とて我事と 子風
名月のほまふれある阿蘇此岳
言納乃もふるも松の下納保 支考

八代 也 密林

やひらうや密林の秋も今言 支考

江津川 川上よりある海苔の

苔の右乃月生涼し好ある 支考

○日向

名所句集下

五三

岩屋戸 豊玉姫の産ありし所也社未詳

岩屋戸八たて 心も差せ神お歎 被岳

速日れお峯 岩屋のより山に松樹あり

岩屋の神也速日れお峯のまゝ、
夏のおおのりくさく目れお峯の歌 支百

御松石 岩屋の前の海中にあり

石や心へ 鴨津く海の面へ松 被岳

千鳥の脚 岩屋のりまにありてあり

探さるの七啼の例乃は籠の糸、
木の葉ちる影をおもく庵のあり 支百

梯觸輝

燈火死すやも 燈火の海の月 被岳

吹井の浦 鶺鴒石

しらさぎも風ふ吹井はく撞ぬ 鶺鴒石
鶺鴒の枝マツキ小馬山仲の石

母堂長川

同水 鶺鴒草背不合言は産湯
くまも也

サアの子れせらもよし 母堂長河

鞍の丘

此地あてまゝハ鞍神なるらんかき
同名の名おあり

流るるせ鞍の丘はあまほし

鶺鴒の嶽

辛卯三月十六日参り

やどりくしりく糸く鶺鴒の岳

梅の嶽

昔より梅枝なるらん花実地は鶺鴒

梅の香ふらんかれく高き嶽

松原

あま紀原に備の山戸
み海あのみなりとも

海苔の味何を起るや神心 交百

○大隅

。奈毛木の妻

ろらら何とかけきし夢の蝶声

貞室

梅の香

。花の名も大まきと深やあらう時

薩下 深也

○薩摩

。仲の小舟 平原に流されし也

。以風お告よ小舟を志仲船 市仙

棒乃津

。持の舟おあし振りよはらおも 性温

○對馬

○中津浦 中津

名月や々宵城井のま乃浦一巴

○高野山

高野山や海乃鳴りぬ招徠の夢 雅郊
丁啼やさるをよまふ山は夕風 何外

香の山

香の山や花の香は山ほのり 香言

○さくら

○雪の降 牧のお牛 おまひ松 びと

ふりこけおふりまの さの降 雅郊

○風中

風中ハ吹多ししげ雨のふ 蛇田

○呼子の松原

松原や風休みはなほも 栗花

○天乃原

波向し東のふれ秋の木の葉 野馬 竹波

○長門

早鞆社 和布刈社。赤間宮と

け浦の和布刈とやいお雲 三糸風

住吉社 松ヶ系けおなうとくお洋

涼風種し空を神松のなほと 三糸風

壇の浦 平家没落の地

浦の名乃きとくくしゆもや荒^系重久
陸小涼風以の八百歳平家蟹^系年風
香秋跡の道守やけ浦の秋^系考
秋の神々もも嘆く平家蟹^系
付死の法は津を小お千を^系新波
月ま心やる庭あも清き都を^系涼袋
榭初ぬ都をかふし^系波打

冷き松の影

くまき乃やけも松の秋時^系考
初く来て初くまきやうの影^系涼袋

亀山八幡社

そ世のまき神松風やる^系涼袋

○周防

岩國山 さき山ともよし。志弱

岩国山や世不知るきれ山車純 漁光

化粧坂 文考

百合の志涌お碓と化粧坂 文考

若菜家の後文市の御乳

五月雨ふ潤しぬ梅の深乳 文考

依那、磯田

候々小山々々後の田舎 文考

眺を

子と女や馬場山越えんけ、

○安芸

○ 峯堂社麻 白以備 下付ハ 下と後 一于付ハ

風	の	樹	陰	柔	乃	扇	や	い	つ	く	時	涼	菴
言	詠	也	廻	命	小	板	の	ぬ	や	ま	記	涼	菴
灯	籠	や	い	い	く	空	山	波	乃	を	を	涼	菴
日	湖	を	穿	也	麻	乃	乃	乃	乃	乃	乃	涼	菴
い	さ	る	と	久	を	ま	の	ま	あ	の	い	つ	く
道	風	吹	け	れ	れ	涼	し	り	い	く	時	涼	菴
正	席	の	影	か	り	涼	し	伸	の	虹	涼	菴	松
海	涼	し	る	い	灯	の	早	乃	乃	乃	乃	涼	菴
													不
													言

まきや月の光るしなきの海 不涼

弥山 山し

所	の	実	須	弥	山	と	安	藤	乃	涼
山	と	六	け	し	の	女	言	小	胡	白
月	も	今	や	西	く	れ	な	る	小	涼
										涼
										袋

○ 後後

○ 鞆浦 磯の室のホしよあう

左右ふ泓のいあう

左船く梢ふ茂る邊理の江 三あ風

あーう 深 地浦 尾 深網

うき網の着く橋 茂る四月 支考

○ 備中

吉備の中山 吉備の小山 菅代山 因三河 細谷川

吉備の中山 備前備中の境 一島

吉備津彦社 谷屋 ちちり 釜を 杖はと 徳をた

鯨のきりも 備ふやれ 釜の山をき 三え

三玉をひくふ 善乃 神のふ 祇堂

二万七千 夏もの大

うらけおや 負く 倭小母のき 宿舟

○海茶

茶戸乃渡 依来と希世形と海茶一西
按列ニ田名の名あり

当館線うらけ海茶 茶

まらみー 浮洲の世のあらは 膏阿

彼の男は

とて 姑て 何せ 心浦の 田植 時 支考

○牛意

牛意小舟の 田や 枕の 名 仙風
陶焼 玉うらけ 新海舟 漁光

○小舟

貝拾ふ 小舟の 浦 舟 通船

○播磨石

岩の根の松

天橋を境内とて松林ありて松林あり

雪のほろ根もくさき名所

梅苑

五月のゆるい松林の海や庭の松

宗風

草のせむし松のまきとくさき根乃松

可楽園

ふきこもれ松のたてまつり松の影

涼衣

若狭の松林のまきとくさき根乃松

庭良

六月のゆるい松林の海や庭の松

不言

松のまきとくさき根乃松

素外

○^{シゲ}静の窟

静の窟の窟

みくさる石乃窟の窟

源仲

流川

流川や松林の結ばの窟

宗風

高砂の浦

倭山松尾此落松言砂の川東に

心ふのこを言砂ハ玉乃飾松系 受一

有月もや尾との落江流言家 風虎

嬉松乃浦中乳や降部云 三子風

杜了言砂尾と二世津市 如考

初を言や松と分めて後力智 中外

黄と山の中松とて因り言言 素外

書寫山

如教寺

書寫山此山公名海を山に如紫如紫 風子

何とを言何成山して降序 涼師

室

津。海。泊

物津ニ同名あり

蝶ましく新落乃室や風月の津 三子風

楫も保て楫も毛し交の月 涼師

明石乃浦

泊。歌

温飽

二歌もや明石此舟のかとまきん 紙舟

あきあきと梅を明に宿る鹿生羽 未覚

式部と花のふ

紫の華の吹石とくちあきふ 宗風

かききに消りくちあきふ 芭蕉

柳を舞いさのながきさき夏は月 素堂

ちりばち明に北朝のあきさう 涼紙

ぬるくも隠れる帆あきさき 素外

あきさきひ 柳の舟に宿る鹿 素外

人形社 大倉谷

お家やまは世の技あり子規 宗風

人形の舟やあき伸の帆 中山

伸の帆の入目惜しむ人忘れ 徳我

あきのあきはのさかや昔はあ 把菊

さきあきあきのあきさき 素外

印南 海川。あきの信あり

雨にまきかきあきあきあき 正信

後所集

○ 藤原麻幸 市川里に並 捐名際
京方之居てあふ山々をまね 玉連

○ 美作

○ 久米の更山 三
忍てもく久米は佐良山にの雪 紙舟

○ 卯名平の虫林 高嶋のまき 高嶋のまきと後り
春まはらりともての雲ふき 何外

○ 伯耆

大山 大智明神 山下の砂タアニ 妙のちり
佐老をたふし白砂を吹てまほか 新風

高所集

新風

○ 周幡

○ 周幡山

夏波ニ稲葉山として回存

まねの松は是ハ周幡のちの松 春伴

○ 三角山

ホウシヨクモ月とせうくまみ山 花子

○ 石見

○ 高角山 人丸社

交のたか 似ふさまる 郭公 宗風
者かたも花の現も石見浮 祇堂

袂の里 小式部を名陽のり衣の包て控し

拾ひものも袂乃里れり 宗風

浪山

常の如く波の山まゝの巻 三子風

○出雲

○出雲社

かゝれぬ色も彩る筆は雨乞の妙 大坂 三子風
雲を七つ見れば雨の身 春耕

○出雲山

そらの中も月におぼれぬも山 可礼
けりも又晴しし山の上 寛之

○鹿蹄川

時と時空もふも山のよりの河 可礼

歌四

和歌山也サテ系小田の初ん軒 宗風

杉江 頼水魚

伯耆第一杉江の百あふせきすし 宗風
氷魚めしや雪の言流筋回し 春耕

八重垣神社 左久佐の里 森

こゝろのわけのはまこめせ雪海苔 秋湊
八重垣の筆乃流やくく礼集 宗風

八束穂小今もまあまの村あり 祇堂

○但馬

雪乃三了溪

三了溪や何代市伝小部も 芳良

○琴弾山

抱ふ紀ろ牛もや山徳のま鹿 市仙

芳洲

七味煎治を村の奥に言ふ廿二間斗下八雨
やましくぬぬ村の底よりなるれ湖こ

をふれまのよも涼の湖と名 涼山

板仕跡

日とろ川山とるまをうたうりなり中央
中室

板仕跡も湖のせも板仕

猿尾の湖

日徳山に言ふ廿六斗子とすあかの言
石紙投てあまると上り奇異の湖こ

ちき日や石もせ猿尾の湖の系

布一の湖

日羅山村に布七匹のまよふ湖の
ちちのまをせりてちるはをよし

布一の湖も涼の湖と名

猿石

日徳村に言ふ一山岩猿のこははくもて猿よる
しき石とさん猿石の猿石あり

あ秋と猿石の猿石猿石

由之良溪山椒大丈う同比三帝う墓

淨段難の位ふなり浄あり 蓮谷

○丹波

丹波路 粟山椒 七毛

丹波路ハ七毛電通一 康の夕 津家

○大江山増井のあり 赤石の岳 十丈の岳 並り

宮そ十里照し世大江の山此日 貞室

大江山東のう布波とくく 定良

湯とくく 鬼とくく 法とくく 栗とくく 赤堂

○千年山 林茶の里

子あ緑を以て若松乃あせ山 紙叶

○村雲山 里

すくもくろあひあひの月 紙叶

○ 隠波

後多羽神社 高前

世や青月さくし村時雨 佐保丸

タリヒ 離丸浮現 海部郡にまはるのあけ神小形丸の宮に相大にた丸はるをましこ

海士の夫も神乃妻社あさ月宮 雲風

○ 鶴の岳 法和に因るあり

一挺乃鶴う岳やをけし人 ト人

○ 若枝

○ 雲之穴

糸比神社 葎の二世上人ははらうまひいと
月清一遊ひのちうらぬ乃上 芭蕉

葎の遊

あつねしはらうまひの葎^{但る} 安成

り色の葎 まことのの貝

葎まや次なる葎うら浦の秋 芭蕉
あふあふまのまとの葎まの葎 ちあ風

卯のまの乃の葎とかの葎の葎 ち考

葎水の葎 あまの川あまの川に 葎戸の葎に

あまのまのまの葎の葎の葎 芭蕉

ま江 思ふ 葎律 同名ま

月まのまのまの葎の葎の葎 芭蕉
あまのまのまの葎の葎の葎 ち考
あまのまのまの葎の葎の葎 ち考

日和山

いよちんれんやうんて日和山
父まのさきあし日和山
後育や公さるは日和山
支考
我尼
金丸

近羽川

川まのハ秋のこをさぬ川
支考

帆山寺
府中

中を備焼くけて帆山寺
支考

所坂山

神々る雪をやら母坂山
支考

○加賀

金澤

初鍾也市の巾ひく浅中川 原巻

小松

き厚ししも名お松ふくと松原 苞蕙

。篠原多因八幡宮 実登る郷のの程と糸

まね松の頭をとの刃由糸甲 三子風

むさんやふ甲乃乃下れきりくま 苞蕙

今之文州の跡もなりの宛 乙由

安宅 松冥

徳宮おちるぬ色は黒い安宅の松を 三子風
雪との巻をこれ脊中と打く宛 大坂 晚山

。白山 権禊社。雷の巻。まきしの平
不二のまき流る日おれとけ山の雪は流る

ふ山も陰別りくらまきの帆 三子風

ま山もわつあきハ一おぼくおに 苞蕙

雪のふえてあお松建あーんこま 原巻

。溪の渡 山伏

都おもひわたのこころを春風 あト

紫雲湯 山中 昔白雲は湯にひるまを疾疾
こころを白雲湯といふ

山中や葉いよれぬ湯の白し 芭蕉

後やゆめは蒲さむる湯は成り 支考

仙人うめを湯入の紫花の露 乙由

那谷親もまき 奇石さまあり

石山の石を白し 秋の風 芭蕉

。以瓶の松 西上人の寺あり

ねふとる風や破る渡のこ 支考

。井乃浦

神をよこす一節くさ井の浦 柳屋

○能登

筆一書

筆一書もよきはく月夕鳥

源傳

○名所の後

急くなよ月小鳥のこし紅

飛郊

○依渡

依渡る海 金山

罪なると死ふの月も依渡をれ

才角

○雪の言渡

言渡やわらうも雪の帆けみ

太布

○越後

越路

越の山 嵯峨。越の中山 越中。越の大山 越中。条下 越路。雪の干 雪の干。

三月月北地とも越後の雨乃上
 梅立て越の原香やとほくし
 けくろひのふきふしきこの年
 日あゝるまゝ夏あゆみ山梅
 春解やまゝしつ年おちむと
 多他れまゝのなる免や越の人
 不登

何〜生活しむる中一越の夏
 不登

親より次 市ありの海まじ

人として親より次〜悲しや
 涼菫
 深代
 次上
 金尾
 世ありの海まじ

若海也 伏波不横 子浪河 芭蕉

米山

葦の原も 米山にありし 一粒携 子風

七不思議之詠

草小油

柄月本村山妻の田に在るなる漏亦乃
泡沫皆伸也

代も不伸も 喜し 伸いされ 梅郊

如法寺村の穴

穴中を穿ちたる穴と名を 田加 寺の
例 穴あり 石白と 白の穴
井の筒と云ふ事 和と云ふ事 附あり 附あり 附あり
首のそわちともりて 附あり 附あり 附あり 附あり 附あり
穴あり 穴あり 穴あり 穴あり 穴あり 穴あり 穴あり 穴あり

室も乃ら 穴乃ら 色建め 穴あり

送さ井

多分寺村 送さ井の中 杉を以てあり 教書上之
の松を根の骨と云ふ といひ 傳ふ

送さ井 移る 也 送さ井

浪の影月

角田の仲にあり 浪の形あり 中にてま
の形あり あり

月草の草 此 居り 也 伸の月

ハツ梅

小樽村にあり花一朶に実八つ生ると

ハツ梅や実も七を候まじの枝

梅郊

之度西栗

安田に五一年に三度り実のり栗の果大に廣し

照る月も咲く三度栗の花

かまひとも

風を け風あつて海をゆれ

羅刀てむく傘月にかまひとも

○越中

有磯海

波も海と

海松のまらるる神代もあま磯海

宗風

早稲の香もけり入石釜磯海

苞蒸

ま却の浦

晴。海。森

是米ふもあ月夜多能乃秋

文考

多胡の浦は打めく忍れはるる 花簾

。奈吉の海 江。湊。門

五月もや山も隠れ奈吉の海 蝶羽

ひあゝとてみ

片舟ぬ海は声や奈吉有哉 我中 好風

。石流跡

立山と波名流跡めり 西考

○ 飛弾

。位山 いらの本筋がらあこ 古き塔位をけて

父もあまの来そく 糸 のや 一雪

位山越ゆく 大坂 名朝

花王 了首

名月 名英

○羨濃

梶 三喜丸

羨濃海

杉戸ふちもろもろ羨濃海の早味 惟珍

床物渡

羨濃をい玉境

少中をきとけいけいふふ 不角
をい玉境伸と苦の羨り小 辰角

茶乃ともふ老の床さめお華ひ 乙由

宵の好いぬもて海山ゆいせ 平砂

乃盤高家塚 山中村と上のる

一盤とふふと申時と英人軒 不角

不破丸舟 板鹿山

火越物ももふ申も不破の冥 西武
月の風そなてふふし地冥舟外 重長

秋風也新も留と不破の関 芭蕉
 花梅雪偏ととも花ひし 宗風
 稲妻のげまを尺さう不破の関 荷葉
 木のまかきそ櫛尺せよ不破の関 素下
 旅人や向う合せと不破の関 木因
 月利しと己ら宿と向う外 如行
 霁ちけぬとく人不破此月 虚谷
 常もわる不破関をさす御年 貞佐
 雨ふと立とる色不破の関 五瓶

月とれと波帳不空と不破の関 常梅
 燈のさし 秋此雨風の不破乃関 不造
 婦ももやのしそかゝる不破此関 了因
 新のりもや不破の関を此朝野重 十友
 月およし甘と涼し不破の関 花笠
 新のりもや不破の関を此朝野重 素外

舞ヶ原 古戰場

蟬のあらしの矢野の打隠 不角

。 踊上の里 じうー遊女ありし地と

こゝろぬの別れ尻眼ふき鏡山 不角
 新とつて居れは居るの極さ危 乙由
 何の松よさう人喜修ぬ者有の松 壽角
 ませ極や班女うき登れ破る解 辰角
 赤れお別れしてまゐる昌 涼帝

物見の松

まき野う系

古給らんえんの松ー恥ーや一珠

あらん氏の松と奉りたる前り外 不角
 涼ーさや何氏松のホよまれのき 貞佐
 然ぬう難方あつらむおぬ外 老流
 若月氏あらん松く登るま 旧室

養生老の松

百の事とこりけは涼流の及 乙由

波阜

坪塚や吉井の清流先宣ひ 芭蕉

長良川

鮎 鴉烟

又や類ひも良の川此鮎鮎 芭蕉
おりろして鮎かゝるき鮎鮎が
きりゆゑの鮎もつらふいふ 哉人
鮎の面よ母火おれれて言ね地 為守
松崎し雲もも良此さ月し由 可業
そらとらやのや物し鮎の公 不禅

鮎はくふよ振てふふ良のきり 来道

三侯

三すこやけの藤のきよな松ぼし 乙由

いひぬき川

俗系ぬき川也

蘭や考るる系ぬき川の鮎始 不角

往来の松 加納岩

往来の松

往来の松

又よ〜と啼やは此松の蝶 不角
松陰也 往來此河の入不 不角

○稻葉山 昔初年の他地へをま別れの
おまつきと周創とばあよの伝匠こ

立別れいかなせぬ帝也 澤の松 貞徳
松風うあ〜ひの末々 杜宇 不角
立別れと早もや 稲葉の山より 兼外

行平墓

竈上村とて

是こ此堂顔もも ぬり米ぬ 不角

一春の清水 十廿小ま 後大師が持ると

二人〜と〜り 春分 岩陰 不角

西行塚 大井村

昔獨を〜ゆつれ西行塚 宗風
早ふ天もか〜と 顔と虎り 雨 辰角

○信濃

境橋

英法作法の境に十石峠とて下此に

こゝにおやまぬ物徳は英法 不角

○小曾路 市坂

小曾の信をよせぬくまの軒 芭蕉

こゝおくれ旅めしおろ小曾路

小曾山の父介也こと呼子守 宗風

松雷也小曾此境のみる跡 許六

山吹七巴も物る田くま外

小曾いせもも咲と高天根 支考

乙香は七てもかきる小曾路 信濃 猿

初草まも蟻 田の小曾大根 良也 同如

こゝにおやまぬ物徳は英法 源氏

小曾川也の言して昔の秋 芦皓

五日もあや今いそぎの小曾路 清安

心もくく川吉山若菜 素外

玉味等も水雪の山道の饅頭粉 赤外

男湯女湯

妻の湯とて上をたふさるこ

女湯の湯もやいふ虎の湯 不角

かぶ人坂

かぶ人坂

湯もよあし 熾徳坂とてよと 不角

合点坂

大難不こ

郊外と合点坂とて括て雪の峰 不角

小跡、湯 二節と別れ居るこ

湯もよあかり 紙小跡と湯 不角

湯もよあかりの湯もよあかり 湯 不角

湯もよあかりの湯もよあかり 湯 不角

寝巻の里

甚多美 浦里の湯の湯もよあかりとて

子祝我にかる湯とて湯もよあかり 不角

旅人さると交ち根の山ありし 不角
名もし床え影也木陰雪る 寿南
床啼也床えの床は美の自心 芦皓

梅

ホウのかげの丸梅氏
昔淡路の梅も今終形の梅をゆくよあり

かけ梅や今臥しうじきうく 芭蕉
去りたれく梅は月も寒のれ次 誠人
流るの松明やふよふ 不角
のけ梅や蠅も枯あらしの上 冬紋

梅や遠もくくまの跡か 素外

約ヶ嶽

六月を過ぎし月お後山こ

木城川 日知や雪の弱く岳 圓如
海の雪お林床より汗と減る亀 寿南
東海やちくくお夏れ約の岳 辰角

徳息寺

まの腰 兼伴巴山吹の像を

旁乃乃乃たなよなれ床の夢 松岳

桔梗ヶ原 古戰場

固く死るゝの指もも奈無か 凍袋
負てちる籠ももあり電の輝

糸鞆ヶ嶽

白くすゝ地乃よあめ雲の掃 不角

餅焼山

餅焼く物もよの味を
我鬼山も後よやうる木を 素角

上流河神社

湖の東のまにまに 沼原あれを湯む
まに糸も多く上の方にも

下流河神社

春のま 秋のま 湖の西のまにまに
町に沼ありて賑ひにあり

雪をちる木穂もか九層の川流し 芭蕉
流石の雨よ波の各跡やすうぬ 貞徳
湖の底もさうと久しし草も水 可言
月さしうもぬとるふ流石跡 素角

和国上流

一羽啼てしりや田あゝの杜宇 古 柳結
 一身の傍し月の郊方 祇徳
 晴夜や月ハ浮世に於て
 月ハえん名も在ぬの海の雪 奈芹
 物らもか月の田毎ハ白の傍 奈兒
 文神の月や移るふの雨斗 不言
 五月あや田あゝ小舟の苗のさ 乃吉
 文神や月のささく雪所 素外
 月ささく月神捨るやあゝ

善光寺

くらき光しりちる月ささく
 葦や若く同きふり或明 柳結
 立田のさる作らんささく 操舟
 ささくや白のさかけとりの乾 菴梁
 雨ささくの佛ハ法雲の光る外 素外

戸隠山神社

神乐も谷の戸後乃茂り外言用為甲
川流も神の力や粟此穂 谷梁

黒姫山

仲きりも山姫山や夏木立 谷梁

浅間山

里 烟 音大ニ山繞て吹ぬセし石をニ
初て收し

吹ぬも石ハ浅間此神も外 芭蕉
川流も山姫山や夏木立 万子

若はたこ我鼻たことまをふ 不角
雨の降身えぬ烟吹答め名 寺南
烟の曲る浅間の風涼し 涼袋
かとおす何と浅間は烟 春郊
夕日や浅間のやま此おまれ 百丈
晴のち中よ浅間乃りすすこ 戸外
夏も能く山は遠きと浅間山 五雲
雄偉や烟の浅間の山つ 素外

子持山

言子山氏未詳

子持山何台觀木の松樹 不南

難水山

坂盤根石

實之を難水の系を此子親 系風
よふこる時を難水の種根石 史邦
らん移石余は足させりし時 辰角

○甲斐

甲斐乃白根

毎の奄

甲斐乃根や畑も白き若たをこ 支磨
陰屋よ結ふ白根や重の畑 井風

富士浅間大寺指

在郡吉田に建
三玉一と銘あり

夏山や三玉一乃大寺指 井風

文延山久遠寺 七面山 岩谷 風穴 春宗の流

月の笠石平や谷小の文延山 徳宗

雪の知りも雪し 文延山 井鳳

山寂し輝く自我偈の雪さき 平砂

石和川

新阿川 氏 歌目石

夢も後小出てや 懺悔の新阿河 涼帝

鮎さしぬ石和乃 其月拍くを 素外

。 滝の山 掛の磯 非海き 山中とされとるを

月の船さぬの磯かひの雪 如貞

雪みしむし 縁也 滝の山おろし 涼帝

雪積る雪や 石みゆ 滝の山 井鳳

今も月 持出の磯乃 むく鳥 、

名月や 雪かき 世の 滝の山 常梅

うれもよも 縁も 記 滝の山 一音

秋涼し 乃とる 雪みし 滝乃山 素外

信玄古城

夏州やありし不花人の玉城
今更に八幡帯の内も秋層
秋風やけおる庭控り
奈外

酒折宮

蓮子の秋はさよしのけい松も夜
仰きんく新や城の雲の月
奈外

二水川

山も若菜川のさよふさげ哉
奈外

那内 後信

及ぼす蘭干さ奥の着ふ
洋六

猿橋

猿橋や月も夜もぬ水の音
葛氏

○上野

白雲山

妙義大権現 岩山を律と云ふ

妙義杉小鳥花さるん地部云 宗風
 貝小刀之ぬ管管山と天狗身 不角
 傍心印心ぬさ心花松板 寿角
 お奈屋や蝶と石を丸白帯 茶狐
 おもしれをともる也輝の帯 赤外

松枝

杉皮や焚かみら此梅梅 芦皓

横路

武蔵日名町

むじまの浮ぶ横路の草叶 不角

烏川

梶の花百哺何く寸川 不角

月夜もあふ鳥川 霧水

○刀祿川

底は溜りてくまきとて清り 石少

父ももやぬ成研流を刀祿の寺 輕舟
坂東の一番地やた糸河 水樹

○倅香保 沼 温泉

伊まの流根や三法ふもて星連 葵和
いふ女の媚や花咲けふとて 素角

沼は鴨湯の名蹟とせぬもる 素外

常世屋敷 佐中 赤松 とのこはる

藤の根ぬり松めを有よふ 那夕
癒るれ幡よ打もも何れも 壽角
さしぬれと花新しむ家後 素角

岡部六本木屋 岡部善所とて

苔の花鉢もふも思ふや 不角

名所句集下
此後り何向と通小蝶の教 壽蘭

○下野

大叢山昆ゆつ天 是利

夏山やち流とも 流るる 三光

間々回

初霧うまごま〜回やほ〜き次 霞曉

室此八等 下野社に 烟 六の三ろと抄す

弓〜人の流らぬや 妙いまれ	貞依
烟何室此八等乃〜まをぬ	室一
陽をやがのふまれと神の場	素推
入梅や室此八等の回乃烟	意侍
只な〜ぬまをふ雨の煙を	津安

日光山東照宮

私雨 慈恩心多 仏法信 塗物類 庚寅

あゝ青葉若菜此日の光り 芭蕉
 貴一天子才一照日杉乃花 冷々
 貝糸流れて咲けさう地相のむ 津波
 殿と満ちたやと方此時方とを 操舟
 徳の凡たりこしとよひけしり 雲風
 神宮あふる経の元や時代は松 市仙
 治めまを春月此法や二世元山 空帛
 木と涼し私心めあめの下 素外

山麓の橋

今云神修しとせ

山麓に橋やみ葉の刷毛細工 九室

索麩澁

昔年索麩と流すあり

日さくらもや索麩澁は汗入心 年月

霧降の澁

も烟草の

傘わたるもさ方解り澁時今 菜水

志方降の院を招所流る月 其礼

表身への院

言ハニテ斗身院をめて院の
表身とてりて

將付の院よりりや高直れりめ 菟葱
る白れもいりり院の流世外 栗水
父もやふ院も杉山院の表 湖月
喜阿し院小いみふる院 表外

仲禪寺

湖 庵きれ院

尾のな記院初てや流此年流 平砂
日和を以いおるふ乃申禪寺 其英

玉松山

菱笠 為申ニ回者

刺得て玉松山より衣の 芳良
月得て玉松山より衣の 希因
玉松山より衣の 柳と 枕あり
玉松山より衣の 花乃 風管
老初る衣の 乃し玉松山 西外

暑き日候海不入り空と川 芭蕉
 稲妻あはれ於流し多う空と川 松尾
 き解や野も首ゆる空と川 赤松
 鶺鴒の及よまてくも空と川 雪言
 秋此の紙のせとりもあはれ川 不言
 著き日や形も首ゆる空と川 洋安

温海山

海にさかしく温海と云ふ

あつと云ふ温海にて夕納涼 芭蕉

湯殿山

志乃山・松の野

雲なく月おとす羽の湯殿山 一好
 湯殿山や不滅乃松瓜夏少 三好
 湯殿山はぬ湯殿不濡を被け 芭蕉
 湯殿山はぬ湯殿不濡を被け 芭蕉

月山

雲此の雲に崩れて月の山 芭蕉

羽黒山 倉福総社

涼しさやはほの三ヶ月此羽黒山 芭蕉
有かすや雪の深きすし申谷
かささの川をあの影やぬまふ山 吳龍

大沼浮橋

羽黒山極東佐原に首大小六十あり
の石を松柏をかあわさる小舟あり
まるき秋にけて日あやうかめらる風
まさうい又向いてあり風系不斜とせ

出ろ流るくしけて暖はしけ 塘雨
ふるき此押をせりや流る一り 希固

行月河麻

眺か一尾 仙山金沢村移り
月流川

雪よ帝や片月かふ海と花 奈風
名や傍心眺りのも秋の初り 素登

雄鹿島

初田 岩屋松も大山傍り山傍り
あやの松のうら五毛の自然あり

初虹や傍又びり雄麻の雪 廻四

寒風山

日赤 多絶絶山てそ大はちりしと
いあそこの風系松寄系河に残りしと云

六月や十一日 初山と云ふ時 朔四

鳥海山

百法人多言あり言山と云列太山 初列大峰のわし

毛、以て人ぬ雪れ羽と仰せ給へ
雪解や浪折あらず冬乃海 異夕
冬もあふや雪を八万里雪方の海 異夕
満夕を鳥海山乃八百里あり 素庵

鳥海

九十九森 腰かけ 以のゆきゆくくふ 軒端寺 以哉 秋の冬

糸の月や流人乃助け船 以菴
おや秋や海の瘰子や時中 言水
糸の月や雨よ西絶の糸ふれむ 芭蕉
以哉や宿醒ぬれて海原し 一
夕暮れや橋不帰む波の心 一
西行橋本伝の言ふまじきと 高風
波の稍実ぬるや軒のあか橋 一
糸の月や冬とくしるふ交梅 柳岸
腰かけや初夜神のまゝ名 紙空

軒窓やとち入淨院の石せ声 大坂 乙由
 急流やあふるとし繁け柳整 京 園窓
 秋も終る急流や新神しくれ 二 後林
 急流や橋を絶流し月の光 三 法山
 あり庭のささちあふる川別梓 結城
 小艇あはれやと夜や五湖の秋 雁宕
 急流や板の上漕雪北峯 尾法 一橋
 上と漕楫の常や橋乃実 蝶 結
 急流や月のからも三百斗 長夕

急流や川網あらし橋一橋 柳重
 軒窓乃捨り涼しき雲外 雲明
 急流のささち別なる月おひ 秀玉
 きこゆるや花の上ゆく橋網 意得
 急流や古橋より橋乃夏の海 津友
 茂きく橋乃路やねど規、
 腰かけやこゝろに海をたええ、

急流のささち別なる月おひ、
 急流のささち別なる月おひ、
 急流のささち別なる月おひ、

くわむや乃 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜
冥夜 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜
冥夜 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜 冥夜

吹浦

吹浦 吹浦 吹浦 吹浦 吹浦 吹浦 吹浦 吹浦
吹浦 吹浦 吹浦 吹浦 吹浦 吹浦 吹浦 吹浦

可きあつ鞋

大内伏 糸糸糸
糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸

一棒いこくも 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸
糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸

。袖の浦 酒回

さかなく 女や 常衣 仕務 袖の浦 糸糸糸
糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸

○陸奥

錦木塚

投の細布 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸
糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸

糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸
糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸

若柳や枝の細を結くす今 乙外

厨川

貞任の埤伝あり

見せしむるせと六月まじし厨川 津安

岩平山

森。冥。岡。里。谷の埤水

二考うハ岩くもそ名ふほくきん 素連
風をまゝる雪れ岩くもそ冥の伽羅 津安

平白泉

言破田池

夏野や兵しもの夏は松 芭蕉
うたもよみそ我を居るも白毛か 芳良
古墳や柵と松乃きる田面 津安

夜川。冥蛙

秋風北破れはけり長川 室言
白くゆやも結ひてあらも河 津安

え堂

月影常らあやまじくの光堂 三風
 五月の月の輝り強しる光堂 芭蕉
 下宮や杉は琥珀のまじり光 津家
 木の方浅月を去る光堂 乙外
 志乃ひくゆやじし此等光 宝馬
 まゝ然し名も久々の光堂 素外

摩谷ヶ堂 昆河つ天

有が馬官屋の事下歌乃汗 津家

小樽川 炭焼多そう曰評

くれなるや傍の事思ふ村らこ 津家

。 柿園の仁 あれもの仁に・傍
素とめくハ後宮内

あひるもはは行も、あ代の秋 室言
侍の仁は奇神を風まきふ 津家

張冠橋

松原し平名か河うらまをへ 津安

荒草

あゝ誇りももみぢのむらさ 津安

金花山

少金 金剛山。もろけ山とよみ

まあくむ一日の酔や金花山 不及
月二情ももみぢさく山乃こり 室

白か〇し花さくを陸奥し橋のあ 常路

。緒従乃橋。こゝろの橋也

は風しそそえの橋や袂のそり 室
五月舟のそり緒従乃橋也 津安

。松島。松うし橋。岫。陰。甲十八橋ま

地をこぼ波よあし月の奴 室
何し橋何をそよの秋は京 梅翁

浦のせよ月さく松の浦めらり 糸外

。陰電の浦

六社大明神 神の陰電
千賀の浦 糸紫二日名あり

月を今千賀の陰電かふし 梅翁
夕月や花あもし千賀の沙灘 未道
神のや再しあ賀のくさね 又足
塔の浦の浦浦あもし秋の雪 室言
つらとある部角力やあ賀の秋 糸外

。孫田乃玉川

千巻

何の名乃玉や碎けて花散 糸健

。末の松山

今八寺とありし ところ抽の草

松山も波や海へけさ月る 友静
群きい雪末乃松山あき次 乙外
岩きい目し末のまの山さきし 糸健

。土壺

市川村多賀城址

碑やげらぬく乃花のみら 室言
巡礼の書はくすく玉の杖 素健
國はまら幸はくしり里路の秋 素外

十府 浦・麦菰

麦菰のまけふきおんきんを 室馬

奥乃牧

ふるやんくはくしり奥の牧 後稿

宮城跡 ぢあくのこま 秋軸の筆

ま城ゆへまの迹もよめま地 了首
ま城ゆへま乃跡くまのま 素盈
宮城跡やま路ま路れま秋はま 其礼
ま城ゆへま着はま路ま秋の花 秋香
秋はまま路ま路ま路の軸 素外

木の下路 茶師堂

細路の宮や木の下を流す河 室言

奥の細道

秋枯して葉は細く何処へや 惟然

岩取川

○里。古湯 色は白濁あり

形はよ角力取なり 名は川 室言

笠山島

藤中が宮方塚 武蔵は同名の名あり

笠山島の川を月のみりる 芭蕉
笠山島にさるる宮あり 乃 豊中 宝馬
根よりのりる魂やまゆ 白雲 津安

武隈の松

古松より二木も別れり

桐もつと松と二木は此の月哉 芭蕉
武隈や月も二木の影をさす 室言
心ももつと二木の松乃交るは 津安

。宗吉曾の屏

今や其実し名もせむ鹿 意得

伊達此大木戸 龍摺

龍摺の石も跡をれみすみ 紺舟

跡をる地山此伊達此大木戸也 室言

目さうらもや石も龍乃摺をこい 素外

首松原

文の首の松原其意も凡も心し 丸藤

西行菴田田地 田本

筆や井乃石の庵此跡 漢家

鯖跡匠五寺 阪塚の里 流友一家の石碑 養神無夢 宗持の石あり

石も太刀を白半月小飾此紙幟 芭蕉 石もさびを古き、洞や苔乃と 津家

あら柳名 。まふの里 第馬川のまふ今八石北面乃
方下ニぬらとこ

早苗とらふりち昔あふ柳 芭蕉

草もふ存も面やまれあふを 宝言

菜の突や畑いまてぬあふ柳 津家

ちれくや汗あふ馬のあふ柳 高得

安達ヶ原 岩窟ま
思鬼信しハ成列是之邪と

はのりまや鬼あふるも夕納涼 紙舟

若竹や安達ヶ原も鹿の角 乙由

いらちふ明く津を梅のふ 不言

吾田多良

ま〜雲れあふりちあふら根 宝言

安積山 山の井 信 ぶら

安積山新や井あふる知る姓 系 正業

先ひりあふるあふるむら 津家 津家

いりるや安積の根れ信を帝 月成

かしこいさうさうのほほし 宝集
沼の国は浅くも人の極なせり 素外

阿武隈川

埋木七能 左陸は名を

父を此阿武隈川と押せぬ 宝馬

白川の宴

二所の舞 佐玉宴のほりまうと

風流のほりめや奥に因極唄 芭蕉
早苗よも我々の思き日暮外

うねと波うたし小宴の響き 芳良
白川や舞よ宴のゆるき 東順
能國城後をうら秋の風 純亮
白川や舞の秋風吹き 素外
白川や風乃ほきりけの秋 宝言
うら川の宴にほほえしと 柳水
しとよやまも花よの二所は宴 素連
貝ふやけし形も宴にあり 津友
白川の涼よ通せ舞に素外 素外

○常陸

○海波山。まきこの田井・湯山・吉山 著萩
あきの実 赤い小豆のか多くより

枯れぬ海波をいしと神の石 百里

夏草やまると四方海波山あり 貞佐

海波うら流れておろし銀河 冬旅

海波かくりや一葉を部云 未示

白雪の輝や双ひの夕ほろを 百丈

夕まや晴れて一身をくま山 玉圃

ま〜まやおろし候の海波山 雨井

朝もや思ひはくも隔を 素外

○栗下の田井

夕軒やまはくの田井小市地 亀遊

○えんふせ川 橋川 橋安

流波根の花や積りまは橋安 風虎

秋の葉やくれなる松梅川 二石
 草鞋乃き流るやかけ来て岩の
 水言し底くし若葉の様魚 常梅
 ひまや名よ流れる梅川 角麻
 川あやしくりふ急れ初さう 素英

鹿嶋神社

浦。山。也。矢石根石はしじ麻
 石名流るあり

余風動せしもあやむせぬ麻草石 三石
 白くおのきも氷くもく矢の根石

いし松無風の春日移せし 素竹
 人の代もつとてかきるはしけ 葵石

亦中

鹿嶋のあやむせぬ麻草石 津安

要石

石のあやむせぬ

明りやお日のりよる要石 室言
 神垣のまよれあやむせぬし 角麻
 け石のりよるいさむせぬ 湖月

結核の流と水田のふり落
 史邦
 結核乃因結やさ此因りとも
 嵐林
 結核の結めしやけさ此お
 春郊
 林さ此名も結さるるの落葉外
 未道
 結核の結核神しんれ
 津富
 因を沼をさる結核のさりぬ
 赤外

國府巻

里見氏の秘伝朧をよきおこ

あ房と結ししろふさめてさ未立
 嵐林

切岸やうれをさるし一文お
 山店
 うき雪やたなよふれまらぬ
 史邦

同古戰場

いろちれさなれさうきまらぬ
 史邦
 幽冥の遊し雨や花うけき
 山店
 馬をさるおくかき若葉外
 嵐林
 首領や空ハ管れ葉かくれ
 史邦
 そゆと尖ふ咲さる花さ
 史邦

首領や人もみまゝぬる夏草 山店
端綿の縁ふ向ふや古戰場 紫風

布施寺天社

玉徳をくくくえさや布施寺 其南
白藤とまゝハ洋まれば布施の表 懐我

中津上野 六のそがしハ

星をむくや月のつらさふやハ文足

内野牧

春風やねくく教と内野牧 又足

池子浦

くくや秋の霞みし群を池子口 素外

○上総

千種の濱

岸のほとちもあは種乃貝座し 貞和

矢さう浦 後場と

月のうきみひけとくく雲 素外

雀寄 大唐海

初まや頬さ紀白き雀寄身 龜仙

鳴山 長柄郡東隠見村にまがふ鳴鳥名とす

鳴山や平ふ冬玉の扱はる 龜仙

古船村 日か成る東夷征伐の時難風ありて
舟とてまほしとて

防ふもも負へば櫓き神の舩 貞和

日月山 佐賀にまがふ日月山とて

簾垂る小風の光るや朝月目 素人

赤人社 玉山郡 田中村

くのも乃雪乃山部一郡 平砂

○安房

○師治の寄

小湊より寄しを江崎迄三日を

と為國け外各所おしと

以秋ゆきゆき徳心波のま 水竹

各所方角集坤之巻 終

一陽井邑人 辨語名取方角集と

いふ小冊子二巻と編築寸集

ふらふ及と授合決らあつて宛

やとと托とやの道由来族小徳

の癖なるらととも小陸西海乃

二道いふまといふ七以踏寸との余の

國くいふとくは抑とて執部

山川の河々ありて淡但温淳と知る
ふんげ葉を載る心も山ありて
を以て産物と誤るは向も亦其心
を以て阿菊多年の志を以てせり
丹津又稱之と一冊高津一室
随書して又後小書

安永四年乙未晚夏

東都書林申椒堂

日本橋北室町三丁目

須原屋市兵衛藏板

俳諧明題集

徳信子撰

五冊

片歌

道林のめ
二葉同巻

徳信子撰

二冊

芭蕉桐の一葉

二冊

同草花より道日

一冊

其角雜談集

二冊

同舊宜集日

一冊

素園集

早川平次著

三冊

哥文要語日

一冊

硯乃筏

紀述輯

二冊

はし書より日

一冊

岩手山

志園白扇著

二冊

寒葉齋畫譜日

五冊

根風亭山人著 五冊 水乃ゆく糸東作著 五冊

志道軒傳右門作 五冊 俳諧不斷橋高点的句 全

左傳屬事南陽先生校 廿三冊 大明十三省圖萬國一器東圖 二枚

龍門先生文集二編 三冊 歷代事跡圖大清呂君翰訂正 一枚

大疑錄貝原先生著 二冊 物類品騰平賀鳩溪著 六冊

經義折衷金峩先生著 一冊 十體千字文 一冊

陸賈新語蘭臺先生校 一冊 六體千字文崑陸先生書 一冊

王元美尺牘 一冊 猿橋碑銘諸名家之文筆 一冊

增補地名箋 一冊 字畫淵海筆法之書 二冊

春秋指掌圖 一冊 石印集誼彫刻刀法 二冊

拋入苑の園右人生苑乃呈式 三冊 寐惚先生文集 一冊

生苑千筋藤入江玉暉 五冊 小説土平傳 一冊

古言様魚虎撰 一冊 笑府 一冊

百人一首解栗本氏 一冊 唐明詩鍵 一冊

久乃志^{古和文}の法^法 八冊 大東地名考 一冊

志^{古和文}の法^法 料理集 一冊 詩學小成 四冊

民間備荒錄 二冊 及^{松花堂} 二冊

信濃地名考^{古和文} 三冊 常盤帖^日 二冊

七觀音經 全 應治茶談^{津田玄仙著} 全

唐摹真本十七帖 全 癡治茶談二編^{同作} 全

澤樂詩帖 全 外科撮要^{青木須淵子述} 二冊

解體新書^{杉田玄伯著} 五冊 繪本^{繪本} 方^方 二冊

同 約圖^{同右} 五枚 詞德抄^{同作} 二冊

名物画譜^{豐溪先生筆} 三冊 繪本^{繪本} 三冊

市隱草堂集^{安文仲} 五冊 繪本^{北尾重政筆} 三冊

詩學楷梯^{東里先生輯} 四冊 謙諧名所方角集^{谷素外輯} 二冊

歐陽詢千字文^{戲鴻堂法帖翻刻} 一冊 大成年代廣記 一冊

分間江戸圖鑑^{菊岡沾涼作} 一冊 今日歌集^{望雲樓之狂哥集} 一冊

古今句鑑 谷素外撰 四冊 文子 三冊

向風艸 安文仲諸門人之詩集 二冊 四聲韻選 雲閣千葉先生 二冊

向風艸二編 同作 三冊 瀧本三代帖 三冊

古五絕 西野先生輯校 六冊 翻譯萬國圖 桂川甫周校

幼科種痘方 一冊 統借類句辭 谷素外撰 二冊

詩家法語 西野先生作 全 祀社柏手千句 同作 全

つとく鉄槌 四冊 宗周教句集 同作 二冊

一陽井著述目錄

誹諧繪本 世都孔登起 全部三冊

誹諧名所方角集 全部二冊

誹諧古今句鑑 全部四冊

誹諧神釈行事解 近刻

東都書林 西村源六 須原屋市兵衛

